

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市区西玉池町255番		
自己評価作成日	平成28年12月30日	評価結果市町村受理日	平成29年 5月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanji=true&JizyosyoCd=2370400992-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様がその人らしく最期まで暮らして頂くため、安易に車椅子を使うことをせず、ご自分の足で1歩でも2歩でも歩いて頂けるようご支援しております。また、食事に関しても終口摂取が少しでも長くでき、ご自分の力で召し上がって頂けるようご支援しております。日々の生活でも、行動を制限しないような関わりを持ち、自由で安全な生活を送られる様に月に一度の勉強会を行なっており、防災訓練についても2ヶ月に一度の間隔で行い、災害時に備えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「男は男らしく、女は女らしく、人間は人間らしく」という理念を実現すべく、常に利用者本位の支援を行っている。調査日の利用者はまるで自宅にいる様な落ち着きで過ごしていたが、それは日頃から職員への指導に関して、知識や技術よりも「人間を育てる事」を重視してきた結果であり、今では職員に十分浸透し「利用者本位」の実現に繋がっているからであろう。あえて言葉ではなく、管理者自らが接し方で示したり、利用者の協力を得て、職員自らが気付き、改善する指導方法に感銘を覚えた。又、地域の4施設でコンソーシアムを毎月開催し、勉強会や職員交流を行うなど、地域全体を福祉コミュニティとして考え、日々研鑽には励んでいる。目標である「あいり村」の実現に向けて一歩一歩着実に前進している様に感じられ、今後の事業所としての取り組みが大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は共有されており、自立支援、利用者様中心のケアの実践に努めている。	事業所の理念は入職時や勉強会などで説明し、職員は理解している。管理者は5つの教訓として「感謝、情熱、尊敬、謙虚、誠実」を掲げ「利用者本位」実践に向け強い意志を持っており、家族からの評価も継続して高い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には難しいが、月に一度のいどばた会や歌声喫茶に参加して頂き、地域の方との交流を図っている。また、毎日の買い物にも同行して頂き、社会との関わりを持てるよう努めている。	夏祭りや秋祭り、コミュニティでのいどばた会や歌声喫茶で毎月地域との交流を深めている。ついた餅を配ったり、買出し時に職員が仲介し利用者への理解を得られるよう努めている。管理者も地域とのつながりの大切さを職員に伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いどばた会や歌声喫茶にて認知症ケアや時事問題などを話し合い、ホームの利用者様も参加して頂く事で実際に関わって頂いている。また、地域のイベントへの参加や秋祭りなどを開催し、地域の方と交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、いきいき支援センター、消防団、ご家族様代表の方々話し合い地域の実情や制度、ご家族様からの忌憚のない意見を頂き、サービスの向上に努めている。	運営会議は2か月に一度土曜日のお昼に開催しており、利用者や家族の参加もある。毎回おおよそ固定した参加者であり、事業所はサービス向上の為にも厳しい意見を希望しているが、感謝の言葉が多く厳しい意見は殆ど聞かれていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は代表や管理者が役所等へ確認を取り、また、介護ネットを随時確認し情報を収集している。運営推進会議のメンバーである、いきいき支援センターの方や社協の職員の方とは、いどばた会や歌声喫茶、月に一度行われる近隣のグループホームの集まりによるコンソーシアムにて話をする機会がある。	介護ネットより情報を得たり、加算相談や計画書報告は行っている。しかし相談しても毎回明確な返答は得られていない。いきいき支援センター職員とは運営推進会議やいどばた会、歌声喫茶やコンソーシアムで情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については議論される事もあるが、職員間で理念の共有や認知症ケアを学ぶことで理解し、夜間の防犯目的以外での施錠はしていない。身体拘束については物理的な事だけでなく、言葉による拘束も意識している。ただし、潜在的な身体拘束について、意識を持って取り組む必要はある。	日中は施錠を行っていない。玄関や各フロアの扉に鈴を設置し、利用者の行動にすぐに気付く様に工夫をし出来る限り同行する対応をしている。スピーチロックについては勉強会や面会時の家族の目も活用し、「少し待って下さい」が普通ににならない様に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、勉強会の開催や全体ミーティングでも取り上げられ、意識されている。虐待の起こる要因として、職員のストレスにも意識しており、管理者はいつでも話を聴く姿勢を持ち、職員間でも互いに声を掛け合い助け合えるよう努めている。また、心理カウンセラーによる研修も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会を持っていないが、自立支援の意識を持ち、権利擁護についても管理者が常に意識し現場に投げかけている。身体拘束同様に、知らず知らずのうちに権利侵害をしていないか、全職員が振り返る必要は常にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明を行ない、終末期についても現段階までのご遺志を伺っている。ご家族様からの質問等がない場合には、事業所側から情報を提供し、介護における問題点やリスクなどを説明し、共に支え合う関係性を持てるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時や面会時に情報を提供し、月に一度のお手紙と写真にて日々の生活状況を報告している。利用者様からの訴えにも耳を傾け、電話の希望等も聞いている。また、年に2回の家族会などでも意見交換を行い、現場に反映させている。	日頃から家族の面会は多くありその際に管理者は月一度の手紙と写真での報告以外の現状をありのまま伝えている。家族からの意見は職員にすぐに伝えており、遠方者からFAXで返答もある。年2回の家族会の開催で意見の確認をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談やミーティング、スタッフノートや個人でのやり取りにて、意見交換や提案を共有している。トップダウンにならないように代表者や管理者は積極的に働き掛けている。	管理者は自ら職員に声をかける事を意識して行っている。職員からの気付きの提案には会議で取り上げて話し合っている。職員を3チームに分けチームで役割を相談し実施していく事で、職員の意見の反映と各自の成長を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修の案内や斡旋等もしており、法人内での研修も行っている。実績や能力に応じての評価もされており、役割も持てる取り組みがされている。職場環境については見直すところもあり、職員間でのコミュニケーションをより良くしていく必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記同様に法人内外の研修の案内や参加できる仕組みを取っている。しかし、職員個々の意識の差があり、研修内容が現場に反映されたり、意識の向上が課題である。事業所内の勉強会はチーム制を取り、資料作りから勉強が出来るような仕組みとなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度のコンソーシアムにて近隣のグループホームの方と交流を図る機会が設けられている。そこで学んだものを現場に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の段階でご本人様とご家族様から要望や情報を伺い、日々変化していく感情にも気づきながら良い関係作りをしている。不安を取り除くと言う意識を持って取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様だけでなく、ご家族様の不安解消にも努め、情報の提供や職員と共に支えていくという関係性を築いている。親戚の様な関係性と表現し、ご利用者様を含めた関係性を維持している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時等には情報提供を行い、なかなか会えないご家族様には状況に応じて電話連絡をさせて頂いたり迅速な対応に努めている。些細なことでも職員間で意見を出し合い、早期に必要な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いがお互いを支え合う関係性を築ける様に努めているが、介護をする側とされる側になっている場面もみられる。父権主義的にならないよう、常に意識を持って取り組み、勉強をする必要がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に連携を図り、任せっきりや押しつけることの無いような関わりが持てている。親戚の様な関係性の維持と、何より入居されているご本人様を中心に支援できる環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの買い物先が馴染みの場所となっている方がおられるが、もともとホーム近隣のお住まいではない方が多く、ホーム側から馴染みの場所へと言うのは難しい。ご友人など来訪等もあり、関係性が続けられる環境は整えられるよう努めている。	民謡ボランティアが月2回継続して来訪がある事で今では馴染みの関係となり、その際に詩吟を楽しむ利用者がいる。買い物に出掛けた際友人と会った事により、そのスーパーに買い物に出掛ける事を楽しみにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時にトラブルになることもあるが、一つ屋根の下、生活されている皆様が互いに協力して生活できるようご支援している。そのために職員は認知症についての勉強をする必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談支援に努めている。実際に退去されたご家族様がイベントに参加される等のこともあり、ホーム側としても関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様からの要望は可能な限りご支援し、計画作成者を中心に意向を把握している。本人本位の視点は常に意識しており、その方の状態に応じてご家族様の意向も取り入れている。	主に日頃の支援の中で意向を把握している。「利用者一人ひとりがどういう生活をしたのか」を常に考え、発語が困難な利用者にはこれまでの生活や食事介助であればそのしぐさや表情などから読み取り思いの把握する事に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活歴はご家族様からも得られないケースが多いが、入居に至った経緯等は十分に話を聴き、その後の支援に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のできる事に意識を持ち、自立支援に取り組んでいる。無理強いをする事のないように様子を伺いながらご支援している。また、アクティビティからニーズを抽出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一同が介してのモニタリングはなかなか行えていないが、書面や個々に意見を求めて作成している。ご家族様とはケアプランの説明の際に意見を聴き、職員間では全体ミーティングが主に情報を共有する場となっている。月に一度のミーティングであるため、必要に応じてミーティングを開催する必要があるように思う。	家族や利用者の意向の変化を確認し思いを計画書に取り入れている。モニタリングシートに気づきを記入する欄を追加した。日常行っている事は日課表へ落とし込み、日々の介護記録用紙にはプランを載せ、より周知できるように工夫をしている。	職員が意向を把握し計画書に取り入れ、評価するまでの目で見える書面があれば、より理解が深まるであろう。達成できた喜びを共有する事で、更なる思いの実現に繋がる事が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記入はされているが、職員の意識や経験の差で内容の質に差がある。職員間の情報の共有も努めているが、前述の通り、全体では出来ていない。今後も課題として取り組む必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他事業所のイベントに参加したり、転居などのご相談にももの事がある。できるだけ、閉鎖的な空間にならないように外部の目を取り入れられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はなかなか出来ていないが、夏祭りへの参加や公園、スーパーなどは活用し、楽しんで頂けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様並びにご家族様のご希望に応じて医療を受けて頂いている。状況に応じて、ホーム側が受診に付き添う事もあり、可能な限り意思を尊重できる様に努めている。	協力医の往診は2週間に1度ある。他のかかりつけを希望する事は自由であり、家族と受診している利用者もいる。必要時は家族に代わり職員が同行し受診支援を行う事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師が居るわけではないが、24時間オンコールで、いつでも相談できるようになっている。また、看護師も積極的に介護にも携わっており、介護士も情報を伝えやすい環境となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに情報提供書を作成し、スムーズに治療が受けられるよう支援に努めている。かかりつけの往診医との連携も図れており、協力体制が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から重度化、終末期の話しをさせて頂き、状態の悪化などがあれば随時話をする機会を作り、意向の把握と今後について共通認識を図っている。	入所時には意向をきちんと確認している他、状態に合わせ適した時期に相談を行っている。協力医は夜でも駆けつけてくれるなど協力的であり、事業所はこれまで多くの看取りの実績もある。現在の利用者も全員が事業所での看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の定期的な訓練は出来ておらず、勉強会や講習への参加を促す必要がある。法人内だけでなく、個々で外部の研修に行くことも必要と思われるため、情報の発信にも努める必要がある。職員のレベルに差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に一度の防災訓練を実施しており、夜間想定や水害対策も取り入れている。地域との協力関係はできていないのが現状だが、消防団の方への協力依頼や、自治会長様の情報提供は運営推進会議で受けられている。	事業所には暖炉や喫煙所があり2か月に一度防災訓練を実施している。煙感知器を新たに設置し、迅速に避難できる様になった。ホーム長を始め複数の職員が近所に住んでおりすぐに駆けつける事ができる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった声掛けをしているが、慣れ合いの関係になってしまい、言葉が乱れていることもある。敬意を払い、誠実に関わられるよう専門職としての意識を高めていく必要がある。	「男は男らしく、女は女らしく、人間は人間らしく」という理念であり、常に「利用者本位」である事を管理者は指導している。排泄関係は特に声の大きさや本当に必要な事であるかを考え、時にイニシャルで呼ぶなど個人の尊厳にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援、自己決定の支援は意識して取り組んでいるが、職員の経験やレベルによってばらつきがある。勉強会やミーティングを通じて個々と全体のレベルアップを図る必要がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様によってはその方のペースで生活されているが、介護依存度の高い方等は介助者側の都合となっていることもある。それでもその方の思いを大切にして、希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理念にもあるように女性は女性らしく、男性は男性らしくあれるように気配りをしてご支援している。ご家族様へも協力を願い、いつまでもその人らしくいて頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いに応じて好みの物を提供している。職員と一緒に食事の準備も行えている。食事を楽しんで頂けない事もあるため空気作りに努めたい。	食事の準備から調理、片付けまで利用者が主体となって行っている。買出し時に旬や食材やお買い得品があると利用者と相談し、急遽メニューに加える事もある。職員も一緒に話をしながら食べることで、安全と楽しい時間を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日チェックしており、積極的に促しているが、なかなか摂取して頂けないこともある。好きな飲み物などを関わりの中から見つけ出し、職員間で情報の共有に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様によっては出来ていない事もあるが、口腔ケアの意識は持っており、歯科からの指示や協力も得ながらご支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できるだけオムツの使用を減らし、トイレでの排泄を促している。昼夜によって使い分けたりもしており、意識を持っていると思う。	チェック表をつけ個々に合わせたトイレ誘導を行っている。管理者はバット内失禁を善しとしない事を入職時に説明しており、職員の意識も高い。夜間はトイレ誘導が安眠を優先すべきかを話し合い、声かけた反応を見て対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物よっての自然排便を促しているが、内服薬も利用している。お腹のマッサージなども取り入れており、便秘に対する身体への影響も意識してご支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる環境が整えてあり、ご希望に応じて入浴して頂いている。入浴を好まれない方に対しては入浴できるように声掛けをしている。時間についても希望があれば聞いている。	入浴ができる環境を毎日整え時間も希望に沿った支援を行っている。毎日希望する利用者も可能であれば就寝前にも対応している。拒否のある利用者には適した声かけやわかり易い説明を行う事で、無理強いしない対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や体位にも考慮し、安眠も促している。日中も傾眠が見られる方などはお昼寝などもして頂き、休息を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の経験や能力によって個人差はあるが、薬を入れる袋に薬の名前と効能を記載し分かりやすくしている。また、薬の変更時には特に状態の変化に意識してご支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や掃除などの家事作業を手伝って頂き、役割を持って頂けるように努めている。習字や裁縫などの趣味や特技も発揮できるようご支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望があれば外へ出て頂けるようご支援している。ご家族様のご協力もあり、毎日のように外へ散歩に行かれたり、買い物へも出て頂いている。気分転換にドライブに出たり、事業所内で行っている共用型のデイサービスの送迎に付き添って頂いたりもしている。	日常的に近隣への散歩や食材の買い物に出掛けている。毎月の外食や花見紅葉など四季を楽しめる機会を提供している。利用者の重度化はあるが、少人数に分かれ皆が楽しめるメンバー構成に配慮したり、職員は自発的に「行きたい」と思える様な接し方を意識して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少しの金銭を自己管理されている方も見えるが、基本的には金銭の預かりはしていない。しかし、購入などのご希望があれば、立て替えての金銭の使用が出来るため、可能な限り自由に使える状況ではある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればお電話して頂けるようにしている。手紙はご希望がないものの、希望があればやり取りできる。中には個人でご家族様と繋がる携帯電話を持たれている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境作りに努めており、臭いにも意識している。季節感についてはメニュー表に季節の柄を取り入れたり、シーズンの飾り付けをしている。職員も環境の一部と言う意識を持つ必要がある。	1階のリビングには大きな暖炉があり、焼き芋も作るなど利用者の楽しみの一つとなっている。木目のフローリングや机が落ち着きのある空間を作り出し、壁には利用者が書いた食事メニューを貼り毎食後剥がしていく事で、次の食事が何であるかをわかり易くする工夫を行っている。	廊下に手すりの設置がなく手引き介助を行っている。それ故職員の危険意識は高く保たれているが、中には不安を感じている職員もいる。今後の利用者の重度化を考慮すると必要になる事が考えられ、事業所として検討が必要となるであろう。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が過ごす場面はあるが、居室以外にお一人になる空間がない。気候によってはデッキや庭、玄関先にて過ごして頂いてはいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの物をご持参される方もあり、生活感のあるお部屋の方もいる。空虚な環境にならないよう、誕生日のプレゼントに壁に貼れるメッセージの書かれた物をプレゼントする等、職員が工夫をしている。	居室には鏡や家族写真など思い思いの物を持ち込み自由に飾っている。布団を持ち込み毎日自身で畳むなど昔からの生活習慣を継続している利用者もいた。布団を定期的に干せる様にと、自室の窓が全開にできる様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目立った目印などは無いが、必要に応じて場所が分かるようにしている。手すりなどが少なくハード面は足りない事もあるが、その分、職員が手となり足となり支援をしている。ただし自立支援の観点からはもう少し手すりがあれば良いとも思う。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市区西玉池町255番		
自己評価作成日	平成28年12月30日	評価結果市町村受理日	平成29年 5月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&KijyosyoCd=2370400992-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様がその人らしく最期まで暮らして頂くため、安易に車椅子を使うことをせず、ご自分の足で1歩でも2歩でも歩いて頂けるようご支援しております。また、食事に関しても終口摂取が少しでも長くでき、ご自分の力で召し上がって頂けるようご支援しております。日々の生活でも、行動を制限しないような関わりを持ち、自由で安全な生活を送られる様に月に一度の勉強会を行なっており、防災訓練についても2ヶ月に一度の間隔で行い、災害時に備えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は共有されており、自立支援、利用者様中心のケアの実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には難しいが、月に一度のいどばた会や歌声喫茶に参加して頂き、地域の方との交流を図っている。また、毎日の買い物にも同行して頂き、社会との関わりを持てるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いどばた会や歌声喫茶にて認知症ケアや時事問題などを話し合い、ホームの利用者様も参加して頂く事で実際に関わって頂いている。また、地域のイベントへの参加や秋祭りなどを開催し、地域の方と交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、いきいき支援センター、消防団、ご家族様代表の方々と話し合い地域の実情や制度、ご家族様からの忌憚のない意見を頂き、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は代表や管理者が役所等へ確認を取り、また、介護ネットを随時確認し情報を収集している。運営推進会議のメンバーである、いきいき支援センターの方や社協の職員の方とは、いどばた会や歌声喫茶、月に一度行われる近隣のグループホームの集まりによるコンソーシアムにて話をする機会がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については議論される事もあるが、職員間で理念の共有や認知症ケアを学ぶことで理解し、夜間の防犯目的以外での施錠はしていない。身体拘束については物理的な事だけでなく、言葉による拘束も意識している。ただし、潜在的な身体拘束について、意識を持って取り組む必要はある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、勉強会の開催や全体ミーティングでも取り上げられ、意識されている。虐待の起こる要因として、職員のストレスにも意識しており、管理者はいつでも話を聴く姿勢を持ち、職員間でも互いに声を掛け合い助け合えるよう努めている。また、心理カウンセラーによる研修も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会は持っていないが、自立支援の意識を持ち、権利擁護についても管理者が常に意識し現場に投げかけている。身体拘束同様に、知らず知らずのうちに権利侵害をしていないか、全職員が振り返る必要は常にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明を行ない、終末期についても現段階でのご遺志を伺っている。ご家族様からの質問等がない場合には、事業所側から情報を提供し、介護における問題点やリスクなどを説明し、共に支え合う関係性を持てるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時や面会時に情報を提供し、月に一度のお手紙と写真にて日々の生活状況を報告している。利用者様からの訴えにも耳を傾け、電話の希望等も聞いている。また、年に2回の家族会などでも意見交換を行い、現場に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談やミーティング、スタッフノートや個人でのやり取りにて、意見交換や提案を共有している。トップダウンにならないように代表者や管理者は積極的に働き掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修の案内や斡旋等もしており、法人内での研修も行っている。実績や能力に応じての評価もされており、役割も持てる取り組みがされている。職場環境については見直すところもあり、職員間でのコミュニケーションをより良くしていく必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記同様に法人内外の研修の案内や参加できる仕組みを取っている。しかし、職員個々の意識の差があり、研修内容が現場に反映されたり、意識の向上が課題である。事業所内の勉強会はチーム制を取り、資料作りから勉強が出来るような仕組みとなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度のコンソーシアムにて近隣のグループホームの方と交流を図る機会が設けられている。そこで学んだものを現場に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の段階でご本人様とご家族様から要望や情報を伺い、日々変化していく感情にも気づきながら良い関係作りをしている。不安を取り除くと言う意識を持って取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様だけでなく、ご家族様の不安解消にも努め、情報の提供や職員と共に支えていくという関係性を築いている。親戚の様な関係性と表現し、ご利用者様を含めた関係性を維持している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時等には情報提供を行い、なかなか会えないご家族様には状況に応じて電話連絡をさせて頂いたり迅速な対応に努めている。些細なことでも職員間で意見を出し合い、早期に必要な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いがお互いを支え合う関係性を築ける様に努めているが、介護をする側とされる側になっている場面もみられる。父権主義的にならないよう、常に意識を持って取り組み、勉強をする必要がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に連携を図り、任せっきりや押しつけることの無いような関わりが持てている。親戚の様な関係性の維持と、何より入居されているご本人様を中心に支援できる環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの買い物先が馴染みの場所となっている方がおられるが、もともとホーム近隣のお住まいではない方が多く、ホーム側から馴染みの場所へと言うのは難しい。ご友人など来訪等もあり、関係性が続けられる環境は整えられるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時にトラブルになることもあるが、一つ屋根の下、生活されている皆様が互いに協力して生活できるようご支援している。そのために職員は認知症についての勉強をする必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談支援に努めている。実際に退去されたご家族様がイベントに参加される等のこともあり、ホーム側としても関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様からの要望は可能な限りご支援し、計画作成者を中心に意向を把握している。本人本位の視点は常に意識しており、その方の状態に応じてご家族様の意向も取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活歴はご家族様からも得られないケースが多いが、入居に至った経緯等は十分に話を聴き、その後の支援に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のできる事に意識を持ち、自立支援に取り組んでいる。無理強いをする事のないように様子を伺いながらご支援している。また、アクティビティからニーズを抽出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一同が介してのモニタリングはなかなか行えていないが、書面や個々に意見を求めて作成している。ご家族様とはケアプランの説明の際に意見を聴き、職員間では全体ミーティングが主に情報を共有する場となっている。月に一度のミーティングであるため、必要に応じてミーティングを開催する必要があるように思う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記入はされているが、職員の意識や経験の差で内容の質に差がある。職員間の情報の共有も努めているが、前述の通り、全体では出来ていない。今後も課題として取り組む必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他事業所のイベントに参加したり、転居などのご相談にももの事がある。できるだけ、閉鎖的な空間にならないように外部の目を取り入れられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はなかなか出来ていないが、夏祭りへの参加や公園、スーパーなどは活用し、楽しんで頂けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様並びにご家族様のご希望に応じて医療を受けて頂いている。状況に応じて、ホーム側が受診に付き添う事もあり、可能な限り意思を尊重できる様に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師が居るわけではないが、24時間オンコールで、いつでも相談できるようになっている。また、看護師も積極的に介護にも携わっており、介護士も情報を伝えやすい環境となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに情報提供書を作成し、スムーズに治療が受けられるよう支援に努めている。かかりつけの往診医との連携も図れており、協力体制が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から重度化、終末期の話をさせて頂き、状態の悪化などがあれば随時話をする機会を作り、意向の把握と今後について共通認識を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の定期的な訓練は出来ておらず、勉強会や講習への参加を促す必要がある。法人内だけでなく、個々で外部の研修に行くことも必要と思われるため、情報の発信にも努める必要がある。職員のレベルに差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に一度の防災訓練を実施しており、夜間想定や水害対策も取り入れている。地域との協力関係はできていないのが現状だが、消防団の方への協力依頼や、自治会長様の情報提供は運営推進会議で受けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった声掛けをしているが、慣れ合いの関係になってしまい、言葉が乱れていることもある。敬意を払い、誠実に関わられるよう専門職としての意識を高めていく必要がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援、自己決定の支援は意識して取り組んでいるが、職員の経験やレベルによってばらつきがある。勉強会やミーティングを通じて個々と全体のレベルアップを図る必要がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様によってはその方のペースで生活されているが、介護依存度の高い方等は介助者側の都合となっていることもある。それでもその方の思いを大切に、希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理念にもあるように女性は女性らしく、男性は男性らしくあれるように気配りをしてご支援している。ご家族様へも協力を願い、いつまでもその人らしくいて頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いに応じて好みの物を提供している。職員と一緒に食事の準備も行えている。食事を楽しんで頂けない事もあるため空気作りに努めたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日チェックしており、積極的に促しているが、なかなか摂取して頂けないこともある。好きな飲み物などを関わりの中から見つけ出し、職員間で情報の共有に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様によっては出来ていない事もあるが、口腔ケアの意識は持って、歯科からの指示や協力も得ながらご支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できるだけオムツの使用を減らし、トイレでの排泄を促している。昼夜によって使い分けたりもしており、意識を持っていると思う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物よっての自然排便を促しているが、内服薬も利用している。お腹のマッサージなども取り入れており、便秘に対する身体への影響も意識してご支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる環境が整えてあり、ご希望に応じて入っている。入浴を好まない方に対しては入って頂けるように声掛けをしている。時間についても希望があれば聞いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や体位にも考慮し、安眠も促している。日中も傾眠が見られる方などはお昼寝などもして頂き、休息を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の経験や能力によって個人差はあるが、薬を入れる袋に薬の名前と効能を記載し分かりやすくしている。また、薬の変更時には特に状態の変化に意識してご支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や掃除などの家事作業を手伝って頂き、役割を持って頂けるように努めている。習字や裁縫などの趣味や特技も発揮できるようご支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご希望があれば外へ出て頂けるようご支援している。ご家族様のご協力もあり、毎日のように外へ散歩に行かれたり、買い物へも出て頂いている。気分転換にドライブに出たり、事業所内で行っている共用型のデイサービスの送迎に付き添って頂いたりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少しの金銭を自己管理されている方も見えるが、基本的には金銭の預かりはしていない。しかし、購入などのご希望があれば、立て替えての金銭の使用が出来るため、可能な限り自由に使える状況ではある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればお電話して頂けるようにしている。手紙はご希望がないものの、希望があればやり取りできる。中には個人でご家族様と繋がる携帯電話を持たれている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境作りに努めており、臭いにも意識している。季節感についてはメニュー表に季節の柄を取り入れたり、シーズンの飾り付けをしている。職員も環境の一部と言う意識を持つ必要がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が過ごす場面はあるが、居室以外にお一人になる空間がない。気候によってはデッキや庭、玄関先にて過ごして頂いてはいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの物をご持参される方もあり、生活感のあるお部屋の方もいる。空虚な環境にならないよう、誕生日のプレゼントに壁に貼れるメッセージの書かれた物をプレゼントする等、職員が工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目立った目印などは無いが、必要に応じて場所が分かるようにしている。手すりなどが少なくハード面は足りない事もあるが、その分、職員が手となり足となり支援をしている。ただし自立支援の観点からはもう少し手すりがあれば良いとも思う。		